

<金標準、テクニカルの悪さを受け 9500 円への戻り売り基調・・・>



(出所：オアシス)

日銀金融政策決定会合では市場の思惑通りに金融緩和の継続を示唆し、植田日銀総裁は記者会見でバランスを取りタカ派に傾けた発言を行なったが、従来の思惑である 3 月春闘待ちの状態である。ECB 理事会も 4% の政策金利を 3 回連続で据え置きを決定し、ラガルド ECB 総裁は利下げに対して「時期尚早」と言及したが、ユーロ圏の第 4 四半期の成長率がゼロ成長の可能性が高いと発言し、夏以降の利下げに対して含みを持たせている。特に週末に発表された PCE デフレーターではコア前年比で 2.9% に低下し、しかし個人支出は逆に 0.7% の伸びとなるなど個人消費は伸びを示す中で、インフレは低下している。

その事から債券市場で短期債が売られて金利は上昇し、為替市場で円ドルは 148 円台をキープする動きを見せている。特に金標準先物は、9700 円を試すも NY 金の軟調な動きに押されて 9500 円台まで下値を模索しており、今週の FOMC まで 9500 円を試みながら、FOMC の内容次第では 9500 円を割り込む可能性は秘めていると思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** が下げながら、**シグナル** は切り上げており弱気のクロスを示し、RCI でも **短期** が下げ渋り、**長期** は高値を維持しており、戻り売り傾向が強いオシレーターの動きに思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,500,000 円(2024 年 1 月 29 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 68,640 円(2024 年 1 月 29 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>